

近現代の部

I-1 政治行政-町村政

NO. 153

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦()・干支	年 月 日	標 題	○差出人(役名・名前) ●受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原・写 本・真	形 態	数 量	撮 影	箱 番 号
2303 1724	I 1	明治16年	10月25日	(通達書)	○静岡県令 ●なし	明治16年10月25日死亡届規(医師心得、死亡家人心得、戸長、衛生委員心得)、同年12月10日(学務委員職務心得(第1項~43項)、明治17年1月23日(貧民救済規規則1条~10条)、同17年4月25日(製菓手続き1条~10条)とある。	蔵分	原本	活字印刷	4		
2304 1526	I 1	明治17年	10月11日	(衛生委員拝命に付きお知らせ)	○坂本村組戸長:堀本領一郎 ●湯日村:瀧 賀惣次	当組内の新任衛生委員を拝命されたので、職務解職となる、この件お知らせ。	蔵分	原本	状	1		
2305 1192	I 1	明治18年	7月15日	諸願伺届書	○持主:瀧 嘉惣次(裏表紙) ●なし	諸届け願書の雛形を記す。	蔵分	原本	縦	1		
2306 1987	I 1	明治18年	9月20日	規約書	○なし ●なし	農商務省御趣意に基づき、勤勉・節儉・財蓄のための規約を村中一同で定めた。それは前文の後に、①勤勉の事(1~3)、②節儉の事(1~4)、③財蓄の事(1~6)、から構成される。そして最後に、一同これを守ることを約して8名の者が連印している。	蔵分	原本	綴り	1		
2307 1989	I 1	明治20年	2月17日	なし(村会議員当選状)	○坂本村外4ヶ村戸長:堀本領一郎 ●瀧 賀惣次	賀惣次は湯日村村会議員に当選、その通知状と請状。	蔵分	原本	状	2		
2308 1486	I 1	明治29年	6月中旬	伝達書類扣(第1・2号) 初倉村湯日区長就任中;瀧賀惣次	○初倉村湯日区長:瀧 賀惣次(裏表紙) ●なし	明治28年7月より同29年8月迄の下達文を写す。28年7月23日:凱旋兵士帰郷を迎える文、8月12日:軍人慰労会開きの文、9月11日:招魂碑寄付金募集の文、等、日清戦争での勝利の影響と思われる文がある。又29年では2月29日:種痘旅行の文 等あり。	蔵分	原本	縦	2	○	85
2309 1722	I 1	明治41年	(1908年)	(達し文)	○略 ●略	明治41年、参議第15号:川崎町静波前浜の区有地処分、同16号:町税個別割不均一課税の件、同18号:不動産処分の件、明治42年、同20号:41年度榛原郡歳入・出決算、等を収録する。明治42年迄。	蔵分	原本	綴り	3		
2310 1482	I 1	(明治年間)		(届出書類綴込み)	○略 ●略	土地分筆届、反別並野取図、たばこ作付届け、松林寺永続維持規約書 等を綴込む。	蔵分	原本	綴り	1		
2311 2559	I 1	(明治年間)		(榛原郡政書類)	○略 ●略	・榛原郡歳入出決算書・含追加予算書(明治39・40・41・42年度)、・榛原郡通常郡会議書・含議案(明治41・42・43・44)、・基本財産処分の件・含区有地処・不動産処分(明治43)・郡参事会審査意見書(明41)	蔵分	原本	綴り	15		
2312 2558	I 1	(大正年間)		(初倉村政書類)	○略 ●略	・初倉村歳入出予算書・含追加議案書(大正5・6・7)、・初倉村特別会計歳入出予算(大正7)、・県税戸数割賦課人名表・含臨時(大正6・7)、・初倉村役場事務報告(大正6)、・県税営業税雑税等賦課額別表(大正7)。	蔵分	原本	綴り	9		
2313 2009	I 1	なし		農村計画実施ノ為ニスル基本調査及同計画 静岡県属託 榛原郡坂部村	○(坂部村) ●なし	農村計画実施趣旨・注意事項があつて、その外は総戸数並職業別戸数等の一覧表雛型を掲載する。	蔵分	原本	縦	1		

I-2 政治行政-戸口

2314 2560	I 2	なし		人工統計及職業別調査表	○なし ●なし	湯日地区住民に付き、一戸ごとの人口を調べ記録する。一戸に付き1枚の記載。	蔵分	原本	状	14		
--------------	--------	----	--	-------------	------------	--------------------------------------	----	----	---	----	--	--

I-3 政治行政-国・県・郡政

2315 1982	I 3	明治23年	12月	国民必読 国会一覽	○発行所:鳴門堂(東京) ●なし	①憲法、②議院法並各議院編制要略、③国会評解、④政費節減、⑤山県、松方陸奥の3大臣の演説 等、全16項目について解説する。	蔵分 活字本	原本	パンフ	1		
--------------	--------	-------	-----	-----------	---------------------	---	-----------	----	-----	---	--	--

I - 4 政治行政 - 選挙

NO. 154

2316 1547	I 4	明治23年7月5日 (1890年)	静岡県国會議員当選者	○発行者:静岡市宝台院境内 山本泰造 ●なし	第1区~7区迄8名の当選者を載せる(1区で2名)、又次点者は1区~7区迄14名を載せる。榎原郡下出身はなし。第4区(佐野郡)で岡田良一郎が当選、また次点者としては第4区で丸尾文六がいる。	蔵分	原本	活字 パン フ	1	○	85
2317 1539	I 4	大正4年5月15日 (1915年)	県會議員選挙投票所入場券	○投票所管理者:田代三郎 ●なし	選挙人の番号、選挙人の住所・氏名(瀧国蔵)、投票の場所(初倉村役場)、投票の日時(5月25日8時~3時迄)の記載あり。	蔵分	原本	票	1		
2318 1557	I 4	大正4年8月28日 (1915年)	県會議員候補者推薦	○永野佐一郎、外13名連名 ●なし	今回本郡有志の推薦により相良町矢部与左衛門を県會議員候補者と定めた。賛同一票を願いたい。	蔵分	原本	状	1		
2319 1551	I 4	大正4年9月 (1915年)	(榎原郡會議員推薦の告知)	○初倉村政友会支部 ●なし	榎原郡會議員に政友会としては森本利一郎を適任者として推薦するとし、20名の連印を添えている。推薦者氏名の小票あり(7票)。	蔵分	原本	綴り	2		
2320 2014	I 4	大正9年3月 (1920年)	衆議院議員選挙名簿	○なし ●なし	一覧表があつて、それに地租、所得税、營業税、氏名を記載する。地区別に人数を見ると、阪本188、船木181、湯日121、大柳62、中河59、牧野原8で、計617人となっている。	蔵分	原本	綴り	1		

I - 6 政治行政 - 租税

2321 2561	I 6	明治12年8月20日 (1879年)	地券税上納之證	○納人:瀧賀惣次 ●戸長役場	第6期に分けて上納し、上納の都度役場から領収の印をもらっている。明治13年のものを一括同封、地券下付願・紛失届も同封する。外あり。	蔵分	原本	状	5		
2322 1537	I 6	明治18年8月10日 (1885年)	地方税戸数割等級決議報告	○坂本村外4ヶ村戸長:堀本頼一郎 ●なし	地方税戸数割等級については、村費賦課法において斟酌し、無等級とすることが湯日村村会にて決議されたことを伝える。	蔵分	原本	状	1		
2323 1535	I 6	明治18年8月10日 (1885年)	明治18年度營業税雜種税甲乙合算等級報告	○坂本村外4ヶ村戸長:堀本頼一郎 ●なし	4等地湯日村として次のものを挙げる。合13戸、この税:8円37銭9厘、4円19銭4厘、この内訳として、仲買商1戸、小売商9戸、飲食店2戸、雜商1戸があり。	蔵分	原本	綴り	1		
2324 1532	I 6	9月3日	(納税通達)	○湯日戸長:山村久兵衛 ●組長:瀧賀惣次	瀧亦作分の第1期税が不納に付き、公売処分当たり、この処分中、役場を経て当郡役所へ当人出頭し完納せよ、との注意があつた、このこと通知する。	蔵分	原本	状	1		

I - 7 政治行政 - 財政

2325 1536	I 7	明治17年9月 (1884年)	明治17年度村費予算額議案 榎原郡湯日村	○坂本村外4ヶ村戸長:堀本頼一郎 ●なし	金396円52銭、この内訳として、村会費1円80銭、教育費330円、道路架橋費40円50銭、予備費10円、外。	蔵分	原本	綴り	1		
2326 1693	I 7	明治18年 (1885年)	湯日村々会決議	○坂本村4ヶ村戸長:堀本頼一郎 ●なし	18年度予算合金442円19銭7厘、徴収は戸数割、授業料、地価割、小補助費から成るが、地価に依存する部分が大い。	蔵分	原本	綴り	1	○	85
2327 1534	I 7	明治18年 (1885年)	湯日村々会議案	○なし ●なし	明治18年度村費支出予算339円46銭、この中より10円以上のものを挙げると次のとおり、・学校費248円30銭、・学務委員費33円30銭、堤防道路橋梁用水防費44円50銭、徴収期限:前期6月、後半期11月中。	蔵分	原本	綴り	2		
2328 1688	I 7	(明治39年) (1906年)	郡参事会審査意見	○なし ●なし	原案に比して減ずるものは、雑収入6円、各町村分賦額2509円76銭7厘、この理由は各款にて説明するとし、歳入出経常の部を一覧する。明治40年(2冊)を一括同封する。	蔵分	原本	綴り	3		
2329 1095	I 7	明治41年 (1908年)	明治41年静岡県榎原郡通常郡会決議書	○(郡長:稲見明情) ●なし	歳入出予算総計1万3845円90銭2厘を計上(明細略)、外に榎原郡有財産明細表、教育費繼續年及支出方法変更、郡會議員及名誉参事會員郡會議員選挙立会人費用弁償額及至急規程、郡有給部吏員退職料退職給与金遺族扶助米規程を載せる。	蔵分	原本	縦	1		

I - 8 政治行政 - 土木・水利

2330 2017	I 8	明治17年2月23日 (1884年)	水車敷地坪数御届	○瀧賀惣次 ●戸長御中	字垣内の水車敷7坪、水車持主:瀧賀惣次、以上を届け出る。	蔵分	原本	状	1		
--------------	--------	-----------------------	----------	----------------	------------------------------	----	----	---	---	--	--

2331 1559	I 8	明治24年10月23日 (1891年)	(水利土功会開会の通知)	○初倉村長:堀本頼一郎 ●瀧 賀惣次	来る26日、湯日川水利土功会を開催する。午前9時、当役所へ出張されたし。	蔵分	原本	状	1		
2332 1493	I 8	明治29~33年 (1896~1900)	臨時堤防修理関係書類	○略 ●略	・臨時堤防修繕設計書(3冊)、・堤防修繕設計書(明治29)、・同明細書、 ・村費自普請の分	蔵分	原本	綴り	6		
2333 1494	I 8	(明治35年) (1902年)	伐採移転取調表 榛葉扣	○なし ●なし	この表は金谷:初倉往還の内、鎌塚地内のものである。附として、潰地々々一人別取調表がある。	蔵分	原本	綴り	1		
2334 1607	I 8	明治45年1月25日 (1912年)	建議 (川根筋への交通の爲の山路調査)	○建議者・榛原郡会議員徳島若太郎、賛成者議員村松多十外7名 ●榛原郡会議員:村松禮吉	五和村の北部から川根3ヶ村は交通不便で、山路をたどる往來の現実からこれを打開すべく、前年度より県・郡共に改良調査を計画、本年もこの費用に100円を即予備費より支出したく建議する。	蔵分	原本	状	1	○	85
2335 1481	I 8	(明治年間)	湯日村堤防工事破損ヶ所取調	○なし ●なし	破損場所修復費用等、明治27年。29年等のものを綴込む。	蔵分	原本	綴り	1		
2336 2015	I 8	(大正9年) (1920年)	谷口橋 大正9年度工事費	○なし ●なし	・大正8年9月16日落橋に付き残工事費として1999円50銭、・大正9年8月5日落橋に付き修工事費として3047円97銭5厘、その他、通常工事費橋番人給料、薪、筆代 等もあり、総計6186円92銭とある。	蔵分	原本	綴り	1	○	85
2337 1533	I 8	なし	(湯日川堤防修復工事費の件)	○なし ●なし	標題の件に付き、村費負担議案を記載する。その金額77円55銭8厘(負担額の外に会議費、議員手当も)。	蔵分	原本	状	1		
2338 1691	I 8	なし	(往還間数調)	○なし ●なし	小間隔ずつその間数を調べる。その取調べ人は増田市郎兵衛外5人。	蔵分	原本	綴り	1		

I-10 政治行政-司法・警察・消防

2339 1540	I 10	明治10年1月31日 (1877年)	(金穀訴訟の変更)	○静岡県令:大迫貞清 ●なし	金穀預かりの訴訟裁判は、その證書中に封印のまま預かりそのままにしているか又は預かり期間中その金穀使用をしていないことを示す明文があれば年数に係わらず受理する規約であるが、今後は20年以前に係わるものは一切裁判には取り上げないと布告される。このことを通達する。	蔵分	原本	綴り	1		
2340 1531	I 10	明治10年4月9日 (1877年)	委任状之事	○遠江国榛原郡湯日村:瀧 賀惣治 ●山下角太郎	増本権吉より預かり米取り戻しの件で、静岡裁判所より出張の通知があった、自分は病氣にて出張できないので貴殿に委任する。	蔵分	原本	状	2		
2341 2025	I 10	明治18年2月26日 (1885年)	盗難届	○静岡県遠江国榛原郡湯日村:瀧 賀惣次 ●掛川警察署金谷御分署	2月25日晚6時頃に門前の水車つき屋にて米1斗6升を紛失する。	蔵分	原本	状	1		
2342 2562	I 10	明治32年11月17日 (1899年)	家督相続に付登記申請	○初倉村湯日:滝 国蔵 ●掛川区裁判所金谷出張所	略	蔵分	原本	綴り	2		
2343 1632	I 10	大正14年10月18日 (1925年)	感謝状	○建築委員長:塚本良一郎、金谷警察分署長:鈴木平六 ●滝 国蔵	金谷警察分署演武館建築に付き趣旨賛同し、金15円寄付された。これに感謝する。	蔵分	原本	厚紙	1		

I-11 政治行政-戦争・兵事

2344 1996	I 11	明治28年5月13日 (1895年)	勅諭	○御名御じ(天皇) ●なし	明治5年「軍人勅諭」を發して以来、陸海軍の奮起により日清講和の機に至る。今後も軍人としての本分を守って欲しい、との勅諭。	蔵分	原本	印刷物	1		
2345 1718	I 11	明治36年 (1903年)	明治36年10月25日より第3師団機動演習ニ付徴發73宿泊準備扣。湯日区 滝賀惣次	○なし ●なし	夜具、蒲団、枕、畳敷、板敷坪、土間坪敷、宿舎用意量数とその該当氏名を一覧表にして示している。	蔵分	原本	綴り	1		
2346 2018	I 11	明治38年6月 (1905年)	(初倉村出身軍人名簿)	○初倉村役場 ●なし	出征の部、予備役出征の部、内地師団連隊の部、入院者、等を示す。	蔵分	原本	綴り	1		

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦 () 年 月 日	標 題	○差出人 (役名・名前) ●受取人 (役名・名前)	摘 要	備 考	原コ写 本じ真	形態	数量	撮影	箱 番号
2347 1588	II 1	(明治前半期)	上湯日村地敷絵図	○なし ●なし	地番・字名・土地種類・反別・所有者が一枚の絵図面の中に細かく記載される。 「反別並野取絵図帳」と対応する絵図面カ。	蔵分 サイズ 113×53cm	原本	絵 図	1	○	85
2348 1611	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 5 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	記載するやり方は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。 サイズ(変形)=184×70cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2349 1589	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	地引絵図 14枚の内 6	○第3大区23小区、榎原郡下湯日村 ●なし	記載方法は通し番号2347に同じ。「反別並野取絵図帳」と対応する絵図面カ サイズ(変形)=110×50cm	蔵分	原本	絵 図	1	影	
2350 1598	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 8 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示の方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 103×95cm	原本	絵 図	1		
2351 1615	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 9 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。 サイズ(変形)=90×100cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2352 1621	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 1 0 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 67×106cm	原本	絵 図	1		
2353 1617	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 1 1 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 71×119cm	原本	絵 図	1		
2354 1622	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 1 2 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 60×92cm	原本	絵 図	1		
2355 1616	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 1 3 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 104×70cm	原本	絵 図	1		
2356 1596	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 1 4 第3大区23小区	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 110×54cm	原本	絵 図	1		
2357 1618	II 1	(明治前期) (明治5-明治9年)	14枚の内 地引絵図 第3大区23小区榎原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 62×107cm	原本	絵 図	1		
2358 1603	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 5号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。図面中にはり紙あり。 サイズ(変形)=108×75cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2359 1594	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 8号の改12	○なし ●なし	記載方法は通し番号2347に同じ。 サイズ(変形)=116×60cm	蔵分	原本	絵 図	1	影	
2360 1605	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 7号 改11	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。はり紙あり。	蔵分 サイズ 93×80cm	原本	絵 図	1	影	
2361 1595	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 12号	○なし ●なし	記載方法は通し番号2347に同じ。はり紙あり。	蔵分 サイズ =94×76cm	原本	絵 図	1	影	
2362 1597	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 14号	○なし ●なし	記載方法は通し番号2347に同じ。はり紙あり。	蔵分 サイズ 112×53cm	原本	絵 図	1		
2363 1606	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 17号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。はり紙あり。	蔵分 サイズ 136×86cm	原本	絵 図	1		
2364 1600	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内 20号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347に同じ。はり紙あり。	蔵分 サイズ =86×78cm	原本	絵 図	1		

2365 1593	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内22号	○なし ●なし	記載方法は通し番号2347と同じ。所々にはり紙あり。「反別並野取絵図帳」 と対応する絵図カ。 サイズ(変形)=130×75cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2366 1610	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内23号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。 サイズ(変形)=114×80cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2367 1590	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内24号	○なし ●なし	記載方法は通し番号2347と同じ。この絵図はとりわけ山林部分が多い所。 「反別並野取絵図帳」に対応する絵図カ。	蔵分 サイズ 134×76cm	原本	絵 図	1	撮	
2368 1609	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内25号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 98×145cm	原本	絵 図	1		
2369 1608	II 1	(明治前期)	上湯日村地(敷)絵図 33枚の内26号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 90×104cm	原本	絵 図	1		
2370 1599	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内32号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。 サイズ(変形)=77×191cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2371 1619	II 1	(明治前期)	上湯日村地敷絵図 33枚の内32号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。 サイズ(変形)=76×120cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2372 1604	II 1	(明治前期)	(地敷絵図) 第91号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。但し、土地所有者の記載がない。	蔵分 サイズ=73×54cm	原本	絵 図	1		
2373 1601	II 1	(明治前期)	(地引絵図) 第3大区23小区榛原郡下湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 106×67cm	原本	絵 図	1	撮	
2374 1614	II 1	(明治前期)	(地敷絵図)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じであるが、その下書きと思われる。	蔵分 サイズ=54×53cm	原本	絵 図	1		
2375 1602	II 1	(明治前期)	(地敷絵図)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。	蔵分 サイズ 133×54cm	原本	絵 図	1		
2376 1612	II 1	(明治前期)	(地敷絵図)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2347と同じ。絵図中にはり紙あり。 サイズ(変形)=133×55cm	蔵分	原本	絵 図	1		
2377 1464	II 1	(明治前期)	反別並野取絵図帳 榛原郡湯日村	○なし ●なし	土地所有者・地番・一筆毎土地種類に反別を算出している。図面付き。地租改正 に伴う土地調査カ。 ※虫喰い著しく、欠字多い。開閉不能箇所あり。	蔵分	原本	縦	1		
2378 1469	II 1	(明治前期)	(宅地田畑反別並野取絵 図帳)	○なし ●なし	内容については通し番号2377と同じ展開、一枚一枚を綴じて一綴りとしてい る。	蔵分	原本	綴 り	6		
2379 1470	II 1	(明治前期)	(田畑・芝地・原野並野 取絵図帳)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377と同じ。一枚一枚を綴じて一綴りにしている。	蔵分	原本	綴 り	5		
2380 1468	II 1	(明治前期)	(田畑反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	表示の方法は通し番号2377と同じ。一枚一枚を綴じて一綴りにしている。後 に図面のみ切り取った跡がある。	蔵分	原本	綴 り	4		
2381 1466	II 1	(明治前期)	(田畑反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377と同じ。	蔵分	原本	綴 り	4		
2382 1471	II 1	(明治前期)	(田畑反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377と同じ。一枚一枚を綴じて一括している。 所々に絵図面のみ切り取った跡が見られる。	蔵分	原本	綴 り	1		
2383 1467	II 1	(明治前期)	(田反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377と同じ。一枚一枚をひとつに綴じている。	蔵分	原本	綴 り	5		

2384 1472	II 1	(明治前期)	(畑・原野反別並野取図帳) (断簡)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じ。但しその一枚一枚をひと綴りにしないで、バラバラ。もとはひとつに綴込んでいたのかも知れない。	蔵分	原本	状	15		
2385 1465	II 1	(明治前期)	(反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じ。	蔵分 表紙欠	原本	縦	1		
2386 1587	II 1	(明治前期)	(宅地田畑反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	記載方法は通し番号2377に同じ。一枚一枚を綴じて、ひと綴りとしている。	蔵分	原本	綴り	2		
2387 1474	II 1	(明治前期)	(田畑反別並野取絵図帳)	○なし ●なし	記載方法は通し番号2377に同じ。	蔵分 虫喰い、紙変色あり	原本	綴り	3		
2388 1475	II 1	(明治前期)	反別並野取絵図帳 第1・2・3号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じ。1・2・3号を一括ひとつに綴り込む。	蔵分	原本	綴り	3		
2389 1476	II 1	(明治前期)	反別並野取絵図帳 遠江国榎原郡湯日村第5・6・7号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じ。第5号は401番～500番迄、第6・7号は一括綴込み。	蔵分	原本	綴り	2		
2390 1477	II 1	(明治前期)	(反別並野取絵図帳) 第27号、第35号、第33号	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じ。27号は2706号～2800、35号は3401～3500号、33号は表紙に地番表示がない。	蔵分	原本	縦	3		
2391 1479	II 1	(明治前期)	<1番より500番に至る>反別異動費分、旧下分 湯日村	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じであるが、この地番1～500番までが申告しなかった分である。	蔵分 紙に変色あり	原本	縦	1		
2392 1473	II 1	(明治前期)	下野取 雑	○なし ●なし	表示方法は通し番号2377に同じである。	蔵分	原本	横	1		
2393 1463	II 1	(明治前期)	反別並野取絵図帳 第4号：301番より400番迄、湯日村	○なし ●なし	地租改正に伴う土地調査か、一筆ごとの面積を算出する。図面付き。	蔵分	原本	縦	1		
2394 1702	II 1	明治10年9月 (1877年)・丑	地租納期限並地価等級付 扣帳 瀧 賀惣次	○略 ●略	政府からの達しを参考の為に写して扣にしたもの。地価等級、地租の府県庁への納期が記されている。	蔵分	原本	横半	1	○	85
2395 1645	II 1	明治14年4月 (1881年)	地券 (その1)	○静岡県主事榎原部長：関口 潜 ●略	地券52枚の内、35枚は瀧家のもの、あとの17枚は他家所有の土地であったが後に瀧家に移されたもの。	蔵分	原本	厚紙	52		
2396 1646	II 1	明治15年 (1882年)	地券 (その2)	○静岡県主事榎原部長：関口 潜 ●瀧 賀惣次	瀧家所有の土地。後の所有権の移転はない。	蔵分	原本	厚紙	6		
2397 1647	II 1	明治16年2月1日 (1883年)	地券 (その3)	○静岡県主事榎原部長：関口 潜 ●瀧 賀惣次	山林と田の地券。	蔵分	原本	厚紙	2		
2398 1648	II 1	明治17年7月2日 (1884年)	地券 (その4)	○静岡県主事榎原部長：河村八郎次 ●鈴木与三郎	畑5畝2歩、地価18円85銭4厘、とある。	蔵分	原本	厚紙	1		
2399 1649	II 1	明治19年 (1886年)	地券 (その5)	○静岡県主事榎原部長 ●瀧 賀惣次	榎原部長によって、明治19年7月20日付で、河村八郎次、同年9月16日付で、星野鉄太郎となっている。	蔵分	原本	厚紙	6		
2400 1650	II 1	明治20年 (1887年)	地券 (その6)	○静岡県榎原部長：星野鉄太郎 ●瀧 賀惣次	持主は1名のみ小高今吉となっていて、その他は全て瀧 賀惣次である。	蔵分	原本	厚紙	9		
2401 2563	II 1	明治21年 (1888年)	地券證書換願	○なし ●なし	一人の換願でなく複数の人々の書換(所在地・字名・地番・土地種類・反別・持主をそれぞれ記入する)。	蔵分	原本	状綴	3		
2402 1651	II 1	明治22年1月7日 (1889年)	地券 (その7)	○静岡県主事榎原部長：星野鉄太郎 ●瀧 賀惣次	①原野開墾1反9歩、この地価51円5厘、②原野開墾6歩、この地価30銭、となっている。	蔵分	原本	厚紙	2		

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦()・干支	日	標 題	○差出人(役名・名前) ●受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原コ写 本ジ真	形態	数量	撮影	箱 番号
2403 1514	II 1	なし	7月	口上	○調所 ●瀧 質惣次	田地調べの件、未だ不行届、このこと浜松県庁からも厳しいお達しあり、当月5日迄に清帳上納してもらいたい。	蔵分	原本	状	1		
2404 1623	II 1	なし		(粗絵図)	○なし ●なし	地敷絵図作成のために作られた粗絵図カ、図中に反別・氏名のみ記載。 サイズ=37×54cm 外	蔵分	原本	絵 図	7		

II-2 経済・産業-土地

2405 1480	II 2	明治18年 (1885年)		明治18年自1月至6 月地目変換御届 榎原郡湯日村	○欠 ●欠	土地種類・収穫米・地価・地租にその持主を記載し、地目変換分を1冊にまとめている。	蔵分 紙破損・変色あり	原本	縦	1		
2406 1630	II 2	明治19年 (1886年)		地所裂出分売買ニ付地券 御書換願	○湯日村買請人10数名(略) ●静岡県知事:関口隆吉	湯日字法祿地に存する地所裂出分の売買に付き、地券書換えを申請したもの。	蔵分	原本	綴 り	4		
2407 2016	II 2	明治20年 (1887年)		茶畑小作之證	○志太郡島田町小作人:小沢嘉助 外3名 ●湯日松林寺御世話人御中	畑1反3畝19歩(茶畑)を4名で借り受け小作する。期間は明治29年1月から34年12月迄6ケ年。その敷田金は8円、上納期日は毎年5月25日限り。	蔵分	原本	状	1	○	85
2408 1631	II 2	明治21年 (1888年)		地所裂出分売買ニ付地券 御書換願	○湯日村買請人5名(略) ●榎原郡長:星野鉄太郎	湯日村下原の山林に関する地券書換え。外に年号不明の綴り2冊、綴り代が破れバラバラになったものを一括同封する。	蔵分	原本	綴 り	3		
2409 1563	II 2	大正元年8月14日 (1912年)		地所売買契約書	○榎原郡初倉村湯日:瀧 国蔵、志太郡相川村上泉:山下牧太郎 ●地所持主:妻木房平	山林・畑・合計8筆、契約代金2000円、これ村松順三を介して買受ける。	蔵分	原本	綴 り	1		
2410 1560	II 2	大正4年10月22日 (1915年)		土地証明願	○初倉村湯日:瀧 国蔵 ●初倉村長:田代三郎	初倉湯日353番の2、田地14歩、この持主は瀧要作であることを証明する。	蔵分	原本	状	1		
2411 1564	II 2	大正7年1月9日 (1918年)		土地売渡契約証	○初倉村湯日:瀧 国蔵 ●増田茂作	初倉村湯日字馬の瀬にある所有地の田及び山林を1234円にて売り渡す。但し山林に生じる樹木を除く。その内金として230円を受取る。	蔵分	原本	綴 り	1		
2412 1638	II 2	明治15年 (1882年)		土地売渡之証	○略 ●略	山林・田・畑 等、明治15年から明治35年迄のものを一括する。明治15年(11)、16年(1)、17年(1)、20年(1)、21年(2)、26年(1)、27年(1)、29年(1)、35年(1)、年なし(1)。	蔵分	原本	綴 り	21		
2413 2565	II 2	明治~昭和期		土地売渡之証	○略 ●略	略(状のみ)。請け戻しも含む(質入)。	蔵分	原本	状	46		
2414 2564	II 2	大正~昭和戦前		土地売渡証	○略 ●略	田畑・宅地売渡し。綴りと一括同封。大正年間以降のものを一括。	蔵分	原本	綴 り	8		
2415 1575	II 2	昭和4年10月22日 (1929年)		不動産登記名義人表示更 正登記申請	○初倉村湯日申請者:瀧 国蔵 ●掛川区裁判所吉田出張所	初倉村船木にある田地1反5畝15歩、この登記名義人表示更正の登記。登記税20銭となっている。	蔵分	原本	綴 り	1		

II-3 経済・産業-物価・景況

2416 1977	II 3	大正7年12月27日 (1918年)		(大正7年米価騰貴の 一件)	○初倉村長:田代三郎 ●なし	本年8月以来、米価騰貴により各地暴動が起こった。本村もその渦中であつたが各位の多大なる寄付により米の廉売資金潤い困民の希望にそうことが出来、刑事問題に至らなかつたのは不幸中の幸いであつた。その収支計算を報告する。と述べ、米価廉米収支の報告書を載せる。支出の部:米買入=1万7020円30銭 収入の部:計1万1672円71銭、廉売損失:計6184円59銭、寄付人:81名(金子=51名、米=30名)とある。	蔵分 この年8月3日、富山県に発した米騒動は1道3府32県に波及したが、初倉は左記のごとく安泰だったようだ	原本	綴 り	1	○	85
2417 1639	II 3	なし		大字湯日 第13図	○なし ●なし	目次及び貸賃価格等級を一覧表と地番図(場所)で示している。	蔵分	原本	絵 図	1		

2418 1640	II 3	なし	大字湯日 第14図	○なし ●なし	目次及び賃貸価格等級を一覧表と地番図(場所)で示す。	蔵分	原本	絵 図	1		
2419 1641	II 3	なし	大字湯日 第16図	○なし ●なし	目次及び賃貸価格等級を一覧表と地番図(場所)で示す。	蔵分	原本	絵 図	1		
2420 1642	II 3	なし	大字湯日 第17図	○なし ●なし	目次及び賃貸価格等級を一覧表と地番図(場所)で示す。	蔵分	原本	絵 図	1		

II-4 経済・産業-経済団体

2421 1984	II 4	明治27年4月28日 (1894年)	(内国勸業博覧会等の出品時期)	○山村久兵衛 ●瀧 賀惣治	出品期限が近付いて来たので念のためこれを通知する、として、内国勸業博覧会明治27年5月31日まで、静岡県米外9品共進会出品時期、明治27年6月15日迄、として製茶出品を勧めている。	蔵分	原本	状	1		
2422 2024	II 4	明治27年4月 (1894年)	明治27年度茶業雇人その他賃金定	○椋原郡茶業組合事務所 ●なし	茶揉人、茶摘人は、上等・中等・下等の等級あり、茶揉人は上等24銭、中等は20銭、茶摘人は上等8銭、中等7銭、外に、茶蒸方は14銭以下、茶仕方は20銭以下など取り決めている。	蔵分	原本	状	1	○	85
2423 1629	II 4	明治37年4月 (1904年)	茶業雇入其他賃金定	○椋原郡茶業組合事務所 ●なし	茶蒸方18銭以下、茶仕上師40銭以下、茶日摘100目に付き5厘~8厘、茶拾100目に付き金3厘以下、但し、川根地方はこれより各項1割増し、とある	蔵分 明治38年度分もあり	原本	状	2	○	85
2424 1492	II 4	明治43~44年	(静岡県榛原郡茶業組合関係書類)	○なし ●なし	①椋原郡茶業組合補助規程(2冊あり)、②明治43年度経費収支精算報告書 ③静岡県榛原郡茶業組合委員会決議所(明治44年3月)、④通常委員会議案・業務報告書・製茶品評会補助規程(明治43~44)、⑤明治44年業務報告書	蔵分	原本	綴り	5		
2425 1578	II 4	明治45年1月26日 (1912年)	(甘藷切干改良の建議)	○建議者・椋原郡会議員：下等又重、外2名、賛成者：中山忠平 外2名 ●椋原郡会議長：村松禮吉	椋原郡の重要物産の一つであって、年々10数万円の産額を出している甘藷切干の改良増進の為、甘藷同業組合を立ち上げたが、本郡費よりも相当の補助をたく、これを建議。	蔵分	原本	状	1	○	85
2426 1569	II 4	明治45年 (1912年)	遠江製茶法競進会々則	○なし ●なし	本会則は第16条で構成されている。	蔵分	原本	活字 印刷	1		
2427 2567	II 4	(明治年間)	(榛原郡農会書類)	○椋原郡農会 ●なし	①明治41年2月榛原郡農会総会議案(歳入出、農会会費分賦収入方法等)、 ②春茶の経営(婦人の被服等の規則)。	蔵分	原本	綴り	2		
2428 2566	II 4	(明治・大正年間)	静岡県榛原郡茶業組合関係書類	○略 ●略	申合規約、規約改正案、常議委員会議案、茶園試験地補助規定、業務報告書、等を一括。活字に印刷している一紙文書もあり。	蔵分	原本	状と 綴り	27		
2429 1567	II 4	(大正元年) (1912年)	初倉村船木字南原製茶共同製造所新築工費明細書	○なし ●なし	建物、人足、高林式粗操器、望月式操捻器、熱風火炉、外で、計金1163円25銭。その外、上川根村次間組製茶所事業概要を綴込む。	蔵分	原本	綴り	1		
2430 1568	II 4	大正2年3月24日 (1913年)	大正2年度経費収支予算 静岡県榛原郡茶業組合	○なし ●なし	収支予算、計7230円となっている。外に一冊(年代不明)を同封。	蔵分	原本	綴り	2		
2431 1574	II 4	大正2年8月30日 (1913年)	報徳講事加入証明書	○報徳講事世話人：富永嘉一 ●加入者：富永角蔵	明治40年から大正2年迄12回、計金34円77銭5厘を掛けており、加入相違なし、但し、落札の時にはこの證書を引替に落札金を渡すので持参されたい	蔵分	原本	状	1	○	85
2432 1627	II 4	大正7年12月 (1918年)	静岡県榛原郡製茶産額統計	○椋原郡茶業組合 ●なし	郡下16ヶ村の製造別、1番茶~4番茶の量と価格を算出し、これを一覧表にする。	蔵分	原本	状	1	○	85
2433 1628	II 4	(大正8年) (1919年)	茶業組合関係書類	○椋原郡茶業組合事務所(金谷町) ●なし	・大正8年度経費歳入出予算決議書(綴)、・大正7年度経費歳入出追加変更予算決議書(綴)、・大正7年度業務報告(綴)、・議案目録大正7年度経費歳入出追加変更予算書(綴)、・茶業総代人事務取扱心得(状)、・改良組合製茶品評会成績表(状)、椋原郡茶業組合創立30周年記念製茶品評会審査成績(綴)を一括ひとまとめに綴込む。	蔵分	原本	状・ 綴	1		

2434 1635	II 5	明治10年3月 (1877年)	畑地質入之証	○10大区23小区湯日村質入主:加藤庄右衛門、外 証人2名 ●同村:渡辺清蔵	改正畑反別9畝4歩(持主:加藤庄右衛門)、この質入地代金65円。	蔵分	原本	綴り	1		
2435 1634	II 5	なし	耕地小作之証	○榛原郡切山村小作人:(略) ●湯日村:瀧 賀惣治	2反9畝8歩の田反別1反1畝23歩、小作米2俵1斗5升とする。これを借地する。小作料は12月10日納入、違作の時は納入以前に検分することとする	蔵分	原本	綴り	1		
2436 2568	II 5	(明治年間)	茶売買文書	○略 ●略	蔵家と茶業者間の取引。	蔵分	原本	状	8		
2437 2569	II 5	なし	(各戸茶業細目調査)	○静岡県榛原郡農会 ●なし	印刷記入用紙に次の記載あり。各戸が記入している。①茶業に従事する人員、②茶畑耕作・所有反別、③茶用薪・炭の買入高、④茶業用器具の買入・修繕費、紙の買入、⑤茶部屋建坪、雇入れ人、⑥製造高、⑦肥料買入高、等。	蔵分	原本	状	18		
2438 1562	II 5	明治10年 (1877年)	売渡証	○志太郡島田宿売主:二宮秀快、同増野弥三七 ●湯日村本村講中世話人:瀧 賀惣司	遠江国周智郡領家村の内字道東修験谷にある改正反別92町5反9畝29歩の内 の山林を75銭で売り渡す。理由は秋葉寺に寄付するため。	蔵分	原本	状	1		
2439 1483	II 5	(明治前半期)	反米麦等級表 坂本村外4ヶ村戸長役場	○なし ●なし	坂本村、船木村、大柳新田、湯日村、中河村の分を記載する。	蔵分 虫喰い、破損、変色	原本	縦	1		
2440 2004	II 5	明治16年6月 (1883年)	米舂水車御届	○湯日村水車持主惣代:瀧 賀惣次 ●なし	春白4基、これ本年7月1日より水車を設置したいのでこの件届け出る。 また別に、水車は地方税課税の対象となるので、印税持参の上出頭せよ、との戸 長からの達しあり。	蔵分	原本	状	2		
2441 2005	II 5	明治18年3月12日 (1885年)	田地作立散田米請状書	○湯日村:丸木治助 ●瀧 賀惣次	字馬の瀬、散田米5俵1斗9升納(但し4斗2升入り)、外に5升納めは荒地引 き。これは蔵家の田地を小作することに対するもの。その納入は12月1日より 20日の間。もし納入出来ない場合は小作は財産を売払いこの代金と小作米を支 払うことを約す。	蔵分	原本	状	1		
2442 1527	II 5	明治18年5月11日 (1885年)	茶業雇人日当取極	○茶業組合委員 ●なし	①茶採人極上等金25銭、外に上等・並がある。②茶摘人泊り上等金8銭、外に 中等・下等あり。③茶摘み弁当は上等金10銭、並8銭5厘とある。	蔵分 紙破損、シミあり	原本	状	1		
2443 2013	II 5	明治27年10月14日 (1894年)	秣場借受約定之証	○初倉村湯日:増田市郎兵衛、外2名 ●同村:瀧 賀惣次	蔵家所有の勝間田村切山所在の山林4反5畝15歩を秣場として拝借。期間は明 治28年~32年迄。年間の秣代金6円を支払う。	蔵分	原本	状	1		
2444 2011	II 5	明治32年4月9日 (1899年)	委任状	○榛原郡初倉村湯日:瀧 賀惣次 ●(大石かつ)	浜名郡五嶋村の大石かつに、自家製造茶の為に必要な茶摘人足を確保し、蔵家迄 引き連れてくることを任せる。	蔵分	原本	状	1		
2445 1580	II 5	明治44年4月12日 (1911年)	松木買受金借用書証	○初倉村湯日連帯借主:瀧 愛作、同坂本八十吉 ●同村湯日村:瀧 国蔵	国蔵所持地の松木を代金255円で買受ることになり、50円支払った。残り2 05円は明治44年12月限り支払うことを約す。	蔵分	原本	状	1		
2446 1585	II 5	明治45年7月 (1912年)	製茶買入扣 瀧国蔵様	○初倉村湯日:瀧愛作(表紙) ●なし	6月23日~7月5日迄の買入の買目値段を記載する。	蔵分	原本	横半	1		
2447 1554	II 5	大正6年6月25日 (1917年)	証	○永井寅吉、証人:鈴木 ●瀧 国蔵	別紙立木売渡し、契約通り履行することを約す。別紙なし。	蔵分	原本	状	1		
2448 1561	II 5	大正6年6月 (1917年)	立木売渡契約ニ付内金受 領之証	○初倉村湯日:瀧 国蔵、同富永角蔵 ●なし	湯日字三谷沢にある山林7反4畝歩の内、半面に存する立木(松・杉・桜・小 楢・榎スベリ、松等)全部を、代金1200円で売り渡す。その内金の記載なし	蔵分	原本	綴り	1		
2449 1643	II 5	(大正6年) (1917年)	米穀検査ニ就テ	○初倉村農会 ●なし	米の品質改良には検査が必要。他県は続々実施して良質の米を高値で販売してい る。本村も検査し、選別して市場に出したい。検査に当たって問題は地主と小作 の関係であるが、これは煩雑を避け、地主が行なうものとする、として検査の方 法を具体的に記す。外に実施後の報告あり。	蔵分	原本	状	3		
2450 1571	II 5	大正8年8月23日 (1919年)	証	○初倉村湯日売渡人:瀧国蔵、証人:松本伝吉 ●吉田村大楯:八木峯太郎、外4名	山林4反2畝歩の一部、老木杉、桧全部。その概略図面、別紙添付。	蔵分	原本	綴り	1		

II-5 経済・産業－農林業

NO. 162

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦 () ・ 干支	日	標 題	○差出人 (役名・名前) ●受取人 (役名・名前)	摘 要	備 考	原コ写 本ジ真	形 態	数 量	撮 影	箱 号
2451 1577	II 5	昭和12年9月13日 (1937年)		(保安林内立木伐採許可状)	○初倉村湯日:瀧 国蔵 ●静岡県知事	伐採する場所、面積を示し、伐採・搬出期限付きで許可している。同様のもので昭和13年11月、14年12月の許可状を同封。	蔵分	原本	状	3		
2452 1573	II 5	昭和13年5月 (1938年)		保安林樹木売渡証	○椋原部初倉村湯日:瀧 国蔵 外4名 ●鈴木瀧次	売渡の樹木は湯日後口山の山林反別9反歩の内に生ずる松・杉・桧・……、売渡金額無記名。外に伐採運搬期日など記載あり。	蔵分	原本	状	1		
2453 1528	II 5	なし	3月12日	(茶業会議の通知)	○坂本村外4ヶ村戸長:堀本頼一郎 ●湯日村惣代:山村文兵衛	茶業上のことで静岡町にて協議あり、当業者はできるだけ多く出席する。それで椋原部役所へ参集願う。このこと通知徹底されたし。	蔵分	原本	状	1		
2454 1997	II 5	なし		瀧賀惣次小作米取立記	○なし ●なし	5人の者から取り立てている。その米計16俵1斗とある。	蔵分	原本	状	1		

II-6 経済・産業－鉱工業

2455 2001	II 6	明治35年10月18日 (1902年)		(瓦送状)	○伊太:萩原清七 ●松林寺御世話人中	平瓦800枚、唐草52枚、かんむり20枚、角鬼1個、外123枚、金15円28銭4林分。	蔵分	原本	状	2		
2456 1558	II 6	大正4年12月 (1915年)		公告	○尾張国知多郡常滑町製造本大販売所:衣川善右衛門 ●なし	製造陶器米埴白のPR、専売特許以来30年、工場増築を強調する。特約販売店15店を挙げる。県名でなく旧国名で紹介している。	蔵分	原本	活字印刷	1		
2457 2570	II 6	(昭和戦前)		利益配当領収証	○略 ●略	勝岡田自動車配当金等。	蔵分	原本	状	5		
2458 2002	II 6	なし	4月16日	瓦御送状	○谷口:横山久平 ●遠陽銀行初倉村支店	大角1枚、大のし28、中のし42、かんむり18、切角め1枚、これを送るので受取り願いたい。	蔵分	原本	状	1		

II-7 経済・産業－商業

2459 1212	II 7	明治16年6月13日 (1883年)・未		参会講九合目掛金簿 大始:丸木浅吉	○なし ●なし	掛金は45銭8厘から2円41銭6厘迄あり、1円以上を大掛けとしている。	蔵分 分類はII-8に相当	原本	横	1		
2460 1214	II 7	明治34年5月20日 (1901年)		大黒講第参回掛金取立帳 第3回 瀧利吉講	○なし ●なし	大掛の部は1口掛金6円25銭、小掛の部は1口掛金4円93銭1厘となっている。第4回(明治34年)掛金取立。第5・6回瀧利吉講取立帳(明治35年5月)。これらを一括まとめる。	蔵分 綴じ紐とれてバラバラ 分類はII-8に相当	原本	横	3		
2461 1217	II 7	明治34年5月 (1901年)		講事掛金取立帳	○なし ●なし	大掛の部と小掛の部に分れている。	蔵分 分類はII-8に相当	原本	横	1		
2462 1216	II 7	明治36年5月25日 (1903年)		小蔦助五郎講事第1回取立帳 第3・4回講事監理人:瀧国蔵	○なし ●なし	1口5円の掛金。明治35年の取立帳表紙のみを同封する。	蔵分 分類はII-8に相当	原本	横	1		

II-8 経済・産業－金融

2463 1530	II 8	明治10年4月9日 (1877年)		約定証	○遠江国椋原郡湯日村依頼人:瀧 賀惣次 ●山下角太郎、石周助、村松寿来	私の貸金取立を貴方がたにお任せした。取立金高の半分は貴殿らへ謝金として渡し、残りの金高はこちらに渡されたい。取立にかかった費用は自費とする。	蔵分 虫喰いあり	原本	状	2		
2464 1715	II 8	明治10年5月28日 (1877年)		貸金取調表 湯日村 瀧賀惣次	○なし ●なし	貸し金の相手の名前ひとりひとりの貸し金、利益、元利などの金子をあげる(縦帳)、もう一冊、明治36年11月のもの(横帳)を同封。	蔵分	原本	横縦	2		
2465 1709	II 8	明治14年7月21日 (1881年)・巳		(大黒講掛金取立帳) 会主 丸木浅吉	○なし ●なし	掛金と名前(掛主)を記載する。明治14年7月、第4回目掛金取立帳より明治21年8月7日、20回目、終会まで一括同封する。	蔵分	原本	横	12		
2466 1211	II 8	明治16年7月25日 (1883年)		大黒講拾会目掛金簿	○なし ●なし	掛金は金44銭8厘5毛から2円41銭6厘まであり、1円を超える者は「大掛」としている。	蔵分	原本	横	1		

2467 1490	II 8	明治27年1月 (1894年)	湯日本村蓄積社規則	○なし ●なし	有志28名が蓄積社設立、節約によって生じた金銭を貯蓄し合い、他日の危急に備える。この規約は21条から成り、社の組織人員選出の会合などを規程する。	蔵分	原本	縦	1	○	85
2468 1487	II 8	明治29年1月 (1896年)	貯蓄金会計簿 湯日本村講	○なし ●なし	瀧国蔵・村上伝四郎二人の貯蓄額が記されている。	蔵分	原本	縦	1		
2469 1488	II 8	明治30年 (1897年)	蓄積社現量鏡 本村講	○なし ●なし	確認の積み立て金が書かれている。明治31年の帳面、積立金受取帳(横・横半)をも一括同封する。	蔵分	原本	縦 横半	3		
2470 1489	II 8	(明治30-33年)	蓄積金御戻願・同請取之証	○略 ●略	湯日地区字本村講の個人蓄積金(積立金)の請求とその請取書。	蔵分	原本	状	一括		
2471 1708	II 8	明治32年2月26日 (1899年)	(拾壹会講掛金取立帳) 大始 瀧松蔵	○なし ●なし	一口6円で明治32年2月26日初会掛金の取立帳が標題のもの。これに続き別冊として、明治33年2会目掛金取立簿、34年3会目・35年4会目、36年5会目、38年7会目、39年8会目、40年9会目、41年10会目、42年11会目(終会)掛金取立簿を一括同封。	蔵分	原本	横	11		
2472 1215	II 8	明治33年7月30日 (1900年)	大黒講第2会掛金取立帳 2回 瀧利吉講	○なし ●なし	冒頭に講の規約を掲げ、それは第9条までである。掛金は34号迄あり、一口5円となっている。	蔵分	原本	横	1		
2473 1697	II 8	明治34年11月14日 (1901年)	明治34年下半期利息取 立帳 初倉村信用組合	○なし ●なし	阪本、大柳、船木、湯日の4つの部に分けて取立金銭を人名とともに記載する。	蔵分	原本	横	1		
2474 1713	II 8	明治36年 (1903年)	明治36年5・7月25 日 瀧利吉講事取立帳	○なし ●なし	大掛の部は12口、一口掛金6円25銭、11名。小掛の部は28口、一口掛金4円55銭、26名。	蔵分	原本	横	1		
2475 1491	II 8	(明治36~40年)	(預金・貸金諸帳面)	○なし ●なし	標題に関する綴りは次の通りである。①明治36年12月31日現在、定期預金調、②同37年12月末現在、諸預金及び貸金調、③同41年6月現在、定期預金調、④同41年6月31日現在、貸付金調。	蔵分	原本	綴り	4		
2476 1495	II 8	明治37年5月15日 (1904年)	千代田生命保険相互会社 保険案内	○千代田生命保険相互会社 ●なし	保険会社案内で、会社定款、基金拠出者、保険約款、満期返金額(1000円)等を記載する。	蔵分	原本	活字 印刷	1		
2477 1723	II 8	明治39年3月3日 (1906年)	(総会決議事項の報告書)	○大日本産業組合中央会静岡県友会 ●なし	会則(32条からなる)、明治39年度経費予算建議書(当組合発達の為果として計画するように)、総会議事細則(9条まで)。	蔵分	原本	綴り	1		
2478 1719	II 8	明治39年9月21日 (1906年)	産業組合会員名簿更登記 申請	○申請者・有限責任初倉信用組合理事:森本利一郎(中河)、理 事:三浦茂登次 ●掛川区裁判所金谷出張所	組員1名(氏名略)死亡に付き、初倉信用組員名簿より脱退の申請。あと1通も、死亡に付き脱退申請。もう1通は、死亡に付き持分金にて払い戻し願ひ。	蔵分	原本	綴り	3		
2479 1721	II 8	明治40年1月21日 (1907年)	財産目録	○有限責任初倉信用組合理事:三浦茂登次、外2名 ●静岡県知事:李家隆介	資産、負債、貸借対照表、事業報告(一覧表)、総会の決議等を記載する。	蔵分	原本	綴り	1		
2480 1584	II 8	明治42年7月25日 (1909年)	講事掛金取立帳	○なし ●なし	一口5円37銭の無甚、取立人名を記載する。	蔵分	原本	横	1		
2481 1583	II 8	明治42年9月 (1909年)	増田市平講事掛金受取帳 第6号 瀧国蔵	○なし ●なし	会日は毎年5、7、9月の各23日と定めている。	蔵分	原本	横 半	1		
2482 1976	II 8	明治43年12月23日 (1910年)	抵当権売却解除証	○株式会社遠陽銀行初倉支店取締役:中村円一郎 ●初倉村:中条克太郎	担保金750円から屋敷1、畑3筆分の抵当権を解除する、と記載(その理由はない)。	蔵分	原本	綴り	1		
2483 2572	II 8	(明治年間)	借入金證書 (その1)	○略 ●略	遠陽銀行初倉支店より借用返還延期願ひも含む。	蔵分	原本	状	78		
2484 2573	II 8	(大正年間)	借入金證書 (その2)	○略 ●略	遠陽銀行初倉支店より借用、返還延期願ひも含む。	蔵分	原本	状	63		

2485 2575	II 8	(明治～昭和戦前)	借入金證書 (その3)	○略 ●略	20円、85円、650円等、貸借の額が大きい。 綴りを一括	蔵分	原本	綴り	11		
2486 2574	II 8	(昭和戦前)	借入金證書 (その4)	○略 ●略	金子借用、状の一般を一括する。借入金延期願いもあり。	蔵分	原本	状	11		
2487 2571	II 8	(明治・大正)	(初倉信用組合書類)	○略 ●略	借入限度額上申書、割戻し予告、解散に付き精算書(大正5年)、財産調(大正4年)、等。	蔵分	原本	綴りと状	11		
2488 2576	II 8	(明治年間)	(講事金落札・終会譲渡しに付き受取状)	○略 ●略	瀧 松蔵講、瀧 六郎講、鈴木作次郎講(湯日)に関するもの。	蔵分	原本	状	14		
2489 2577	II 8	(明治年間)	(丸木浅吉講に関する書状)	○略 ●略	講金落札、講1口譲り渡し、寺の文書、明治14、16、19、月日なしの分を一括する。また明治15、21、23年約定書、受取りの綴りを含む。	蔵分	原本	状と綴り	15		
2490 2578	II 8	(明治年間)	株式会社登記簿抄本	○略 ●略	株式会社遠陽銀行の登記簿抄本。	蔵分	原本	状	5		
2491 2581	II 8	(明治年間)	貸金滞勧解願	○略 ●略	略	蔵分	原本	状と綴り	一括		
2492 1556	II 8	なし 8月8日	書状	○近賀重五郎 ●瀧 賀惣二	丸木成吉講事のこと、当1番茶会の分は上泉村の定次が落札、ただこの金子の内40円を私が預かり、この金利にて次回より掛け継いでいくと相談約定成る。この金子まだ集まっていないが、どうか早く集めて渡してもらいたい。	蔵分	原本	状	1		

II - 9 経済・産業 - 運輸・通信

2493 1549	II 9	明治23年5月 (1890年)	東海道汽車発着時刻及賃 銭明細表	○静岡大務新聞社 ●なし	静岡・新橋間、静岡・神戸間の発着時刻を載せる。運賃も同様。運賃は上等、中等、下等の3階級に分かれる。	蔵分	原本	活字印刷	1	○	85
2494 1548	II 9	明治24年1月12日 (1891年)	鉄道線路略図日本全国汽 車発着時間	○静岡静陵館出版 ●なし	全国地図は県名ではなく、旧国名で紹介。汽車発着時間では、静岡・島田間は1日6便、所要時間は51分、外に運賃表も載せる。	蔵分	原本	活字印刷	1	○	85
2495 1978	II 9	大正8年12月14日 (1919年)	上申書(谷口橋々銭増加 の儀願出) (下書き)	○谷口橋架橋免許人:堀本美三蔵 ●なし	谷口橋の橋銭増加の件、出願したところ、大正9年度の収入調査及び同9年～16年に至る8年間の収支の予定調査書を提出するよう指示された。それでこれを一覧表にして示す(第1号・第2号表)。第1号表には、人、荷持、荷車、荷車空車、人力車、人力車空車、自転車、自転車の賃金を掲げている。人3銭、荷持4銭、荷車15銭、同空車4銭、人力車10銭、同空車4銭、自転車5銭。第2号表は収支予定調表。	蔵分	原本	綴り	1		

III - 2 社会・労働 - 婦人団体

2496 1572	III 2	大正4年1月27日 (1915年)	奉公人契約書	○桑原春吉、世話人:増田むら ●なし	桑原しかは大正4年1月27日～同5年1月24日まで1ケ年間奉公する。その給料は年24円、その内金12円を受取る。	蔵分	原本	状	1		
--------------	----------	----------------------	--------	-----------------------	--	----	----	---	---	--	--

III - 5 社会・労働 - 社会事業

2497 1478	III 5	明治26年2月19日 (1893年)	報徳積金通帳	○湯日第二報徳社 ●瀧 国蔵	明治26年は国蔵宛のもの外に信太郎宛のものもある。外に明治30、32年は全て国蔵宛である。内容の一例:明治26年国蔵宛のものでは、1月29日より毎日1回、10銭～20銭納めていて、計金1円74銭となっている。	蔵分	原本	横半	4		
2498 1716	III 5	明治33年1月12日 (1900年)	善種寄入金請取通 遠江国報徳社	○遠江国報徳社 ●上湯日村御中	1月12日20銭、3月12日50銭、4月12日20銭、5月12日、7月12日は30銭、10月12日、11月12日と12月12日は20銭とある。あと1通、同年5月20日のもの(横帳)を一括同封。	蔵分	原本	横半と横帳	2		

Ⅲ－５ 社会・労働－社会事業

NO. 165

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦 () ・ 干支	年 月 日	標 題	○差出人 (役名・名前) ●受取人 (役名・名前)	摘 要	備 考	原コ写 本 ^レ 真	形 態	数 量	撮 影	箱 号
2499 1717	Ⅲ 5	明治33年	12月 (1900年)	報徳金取調之事	○上湯日村報徳社社長：瀧 国蔵 外3名 ●遠江国報徳社帳：岡田良一郎	明治33、34、35、36年度を一括同封。33年のものは草稿、34年度で見ると報徳土台金117円4銭6厘、善種金221円17銭1厘、貯蓄金338円57銭8厘、外に善種土台金寄付取調之事として7名、計3円80銭、永安株券所有主取調として39株・17名をあげる。	蔵分 明治34年度のみコ	原本	綴り	4	○	85
2500 1694	Ⅲ 5	明治34年	5月 (1901年)	上湯日村報徳社講事掛金取立帳	○なし ●なし	大掛の部(13口)と小掛の部(7口)に分けて名前と共に掛金を載せる。大掛の部は計金81円25銭、小掛の部は計18円75銭、ついで明治35年の部を載せる。別に「善種寄入金請取通」(横半)を綴込む。	蔵分	原本	横帳 の綴り	1		

Ⅲ－６ 社会・労働－医療・衛生・救恤

2501 1484	Ⅲ 6	嘉永5年	5月 (1852年)・壬子	病人書上帳 上湯日村	○庄屋：瀧 三郎左衛門 ●なし	具体的名前をあげ、その計7人、内、男4、女3人とある。病名はなし。表題には「帳」とあるが、実際は一紙文書。	蔵分 分類はⅢ-1に相当	原本	状	1		
2502 1988	Ⅲ 6	明治13年	9月11日 (1880年)	(衛生委員申付)	○静岡県令：大迫貞清 ●瀧 賀惣次	賀惣次を湯日村衛生委員に申付けと、その承諾書。別状として明治16年8月のものもある。	蔵分	原本	状	6		
2503 1692	Ⅲ 6	なし	9月4日	(私立衛生会支部より順達)	○水野良介 ●なし	榛原郡私立衛生会支部細則決議に付き順達、その順序は阪本→船木→中河→大柳→湯日となって入る。細則は12ヶ条から成る。	蔵分	原本	綴り	1		
2504 2003	Ⅲ 6	なし		榛原郡私立衛生会規則按	○なし ●なし	設立の趣旨からはじまり、第1条から18条迄ある。	蔵分	原本	綴り	1		

Ⅲ－７ 社会・労働－災害

2505 1565	Ⅲ 7	大正4年	12月15日 (1915年)	(感謝状) 一寄付に付き一	○北海道庁長官：俵 孫一 ●静岡県榛原郡初倉村：瀧 国蔵	大正2年北海道外6県凶作、大正3年鹿児島県櫻島爆発、この際に罹災窮民の為に金70銭賑恤は奇特なおこない、その感謝状。	蔵分	原本	状	1		
--------------	--------	------	-------------------	------------------	---------------------------------	--	----	----	---	---	--	--

Ⅲ－８ 社会・労働－世相・民情

2506 1173	Ⅲ 8	明治12年	12月15日 (1879年)	(受取りの証)	○村上伝四郎 ●世話人：賀惣次	講落札金の内より金子受取りの証、明治12年の外に、16、17(2通)、23年のものもある。	蔵分 分類はⅢ-8に相当	原本	状	5		
2507 2026	Ⅲ 8	明治19年	10月 (1886年)	奉公人請書	○榛原郡神戸村：藪田代助、外 請人2名 ●湯日村：瀧 賀惣次	藪田代助の弟条蔵が本年10月より20年12月迄瀧家に奉公に入る。給金はまず3円50銭請取り、残金は示談にて決めるということまでまとまる。あと1通は明治20年の請書、これは松本甚兵衛が1年間金10円の給金で、瀧家に奉公に入っている。	蔵分	原本	状	2		
2508 1993	Ⅲ 8	明治31年	1月 (1898年)	奉公人請書	○神戸村：藪田代助、御判人・湯日村：近賀幸七 ●湯日村：瀧 賀惣次	藪田代蔵は瀧家へ奉公に入る。期間は12月迄。給金17円と衣服を頂戴する。その内14円は前借り。	蔵分	原本	状	1		
2509 1990	Ⅲ 8	大正5年	1月28日 (1916年)	契約書(奉公人請状)	○志太郡大州村田森熊次郎、周旋人：増田村、外連帯保証人：岩本金次郎 ●榛原郡初倉村：瀧 国蔵	熊次郎の子金蔵は瀧家に奉公に入る。期間は大正5年1月28日より大正6年1月25日迄。給金40円、その内金として25円を受取る。	蔵分	原本	状	1		
2510 1541	Ⅲ 8	なし		(久能山御免富の表)	○なし ●なし	御免の富は3月、6月、9月。12月の定日22日とし、子11月の出番を表にして掲げる。	蔵分	原本	状	1		
2511 1543	Ⅲ 8	なし		(奇問即答)	○なし ●なし	・西洋ガラス紙製伝、・竹を平らにする伝、・井戸水の濁りをすぐに澄ます伝、 ・西洋ガイコツオドリ伝、イギリスナラヌケ伝 等、HOW TOに答えている。	蔵分	原本	状	1		

2512 1695	Ⅳ 1	明治6年	3月 (1873年)・酉	異乗同除	○なし ●なし	算数の応用問題51問を載せる。1問：柿2ツ、代銭5文、38の代金は？徐々に難問になっていく。	蔵分	原本	縦	1		
--------------	--------	------	-----------------	------	------------	--	----	----	---	---	--	--

2513 1701	IV 1	明治11年6月17日 (1878年)	詳費録 全	○なし ●なし	瀧国蔵が翼北学舎在学時代、その入用費を書き付ける。布幅1:2銭3厘、斬髪:8銭、下駄1足17銭、計39円32銭1厘とある。そして、「この通り相違なし」と学舎認印あり。明治15・16年のものを一括同封する。	蔵分	原本	横半	3	○	85
2514 2022	IV 1	明治15年1月 (1882年)	塾則並教則	○翼北学舎 ●なし	塾則は13ヶ条、入学は男子のみ、満14才より、起床5時、就寝9時など報徳備書が目立つ。外にヨーロッパ史、外国経済論などがある。	蔵分	原本	活字書	1		
2515 1699	IV 1	明治16年5月20日 (1883年)	米国史 備忘全 瀧 国造	○なし ●なし	これは単語帳、アメリカ史を英語で学習する時、この単語帳を作成したと思われる。裏表紙に、翼北学舎瀧国蔵とあることから、国蔵が掛川倉真の翼北学舎に在学していたことがわかる。	蔵分	原本	横	1		
2516 1210	IV 1	明治18年9月 (1885年)	授業料領収簿 村立小学湯日校	○なし ●なし	記載例 第1号:山村久江 金5銭、18年9月分受取。金5銭、同年10月分受取。金10銭、同年11月12日、2ヶ月分受取。計2円10銭、以下:第2号、3号・・・・・・と75号まで記載する。	蔵分	原本	横	1		
2517 1209	IV 1	明治20年2月9日 (1887年)	学校諸扣簿	○なし ●なし	竹、縄、糞等の寄贈者の名前が月日を追って記載される。	蔵分	原本	横半	1		
2518 1696	IV 1	明治35年5月 (1902年)	帰去来辞	○なし ●なし	晋の陶淵明の「帰去来ノ辞」を白文で載せる。	蔵分	原本	縦	1		
2519 2010	IV 1	明治44年 (1911年)	契約書	○榎原郡有志惣代:久保田晴太郎、川崎町長:戸塚国次郎、外4名連印 ●なし	榎原郡立榎原中学校の校地買収に付き、有志(5名)と川崎町長とが契約したものの。つまり中学校の現在地1600坪を代金2480円にて川崎町から有志に売却したもの。	蔵分	原本	状	1		
2520 1690	IV 1	(明治年間)	手習帳	○なし ●なし	榎原郡村立尋常小学校湯日学校、瀧信太郎と裏表紙にある。	蔵分	原本	横	1		
2521 1579	IV 1	大正2年1月16日 (1913年)	建議一(郡立榎原中学校を県立へ)一	○郡会議員:久保田仁平、外10名 ●榎原郡会議長:村松禮吉	郡立榎原中学校を大正3年4月1日より静岡県立に編入するための建議。	蔵分	原本	状	1	○	85
2522 1552	IV 1	大正4年11月12日 (1915年)	(奉職選奨に付き招待状)	○渡辺福太郎 ●瀧 国蔵	本校13年奉職、今回ははからずも文部大臣より本校に選奨される。このお礼を兼ねて学校にて粗酒を差し上げたい、という招待状。	蔵分	原本	状	1		
2523 952	IV 1	大正5年1月 (1916年)	教育に関する勅語	○東郷平八郎(書) ●なし	教育勅語は明治23年10月30日に発せられたが、本紙は東郷平八郎によって大正5年揮毫されたもの、その写し。	調査封筒入り	原本	状	1		
2524 1529	IV 1	なし 6月17日	告示	○榎原郡長:河村八郎二 ●なし	来る7月1日より10日間、静波町安楽寺にて本郡教育展覧会を開設する。1日午前10時開場式、10日午後1時から賞状授与式を行なう。以上のことを告示	蔵分	原本	状	1		
2525 1542	IV 1	なし	白鹿洞揭示	○なし ●なし	「父子親有り、君臣義有り、夫婦別あり、長幼序あり、朋友信有り」の五教(儒教)を説く。漢文体。	蔵分	原本	状	1		
2526 1725	IV 1	なし	清史覽要	○なし ●なし	中国の清朝の概観書。	蔵分	原本	綴り	1		

IV-3 教育・文化-宗教・習俗

2527 1698	IV 3	明治12年4月 (1879年)	信心講名前帳	○可睡斎世話人:村田栄吉 ●なし	1口50銭、金10銭宛を5ヶ年奉納、五人組合5ヶ年1名宛登山の事、としている。湯日村の世話人は瀧賀惣次。	蔵分	原本	綴り	1		
2528 1726	IV 3	明治14年8月8日 (1881年)	邪蘇教国害論	○編集出版 大阪:斎藤吾一郎 ●なし	静岡県第2号曹洞宗支局は本書を読んで賛同し、1万部を活版印刷したいとして有志賛助を乞い、金1円の寄付を募って(31名)出版したもの。	蔵分	原本	活字本	1		
1529 1714	IV 3	明治15年1月 (1882年)	阿波々神社月並講社人名帳 世話人扣	○願主:藁科古七 湯日村社長:瀧賀惣次(裏表紙) ●なし	瀧瀬作組、岡村重平次組・・・・・・と各組ごとに人名が列挙される。	蔵分	原本	横	1		

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦 () ・ 干支	日	標 題	○差出人 (役名・名前) ●受取人 (役名・名前)	摘 要	備 考	原・写 本・真	形 態	数 量	撮 影	箱 番 号
2530 1538	IV 3	明治15年7月5日 (1882年)		(廻章文)	○阪本・湯日村世話人社長：瀧 賀惣次 ●元沼伏組世話人1、元色尾組世話人4、元初倉川原組世話人1 同村原組世話人3、元谷口原組世話人2(以上名前略)	毎月1日・28日、阪本村内より22名ずつ阿波々神社へ登山すること、このこと阿波々神社より伝達があったので、村内社中へ報せて欲しい、との廻文。	蔵分	原本	綴り	1		
2531 1555	IV 3	明治15年7月 (1882年)		廻文	○湯日村世話人：瀧 賀惣次 ●世話人：宮村清右衛門、外5名	阿波々神社より次の件を報せて来た。これを廻文し、最後の者から返却されたとし、その報せとは、毎月1日・27日、湯日村の者22名ずつ阿波々神社に登山されるということ。	蔵分	原本	状	2		
2532 1566	IV 3	明治15年12月28日 (1882年)		領収證	○阿波々神社社務所 ●瀧 賀惣治 外2名	幣帛料として、米、金子を受取る。	蔵分 虫喰いあり	原本	状	3		
2533 1213	IV 3	明治16年正月 (1883年)・未		阿波々神社 湯日下組	○なし ●なし	神社奉納した銭が個人ごとに記載される。金10銭から8厘までである。その計62銭4厘となっている。	蔵分	原本	横	1		
2534 1636	IV 3	明治16年2月15日 (1883年)		(大弓射的奉納許可願)	○湯日村氏子惣代：瀧賀惣次、治六 ●静岡県令：大迫貞清	3月2、3、4日の3日間、天満宮祭礼の時、社内の弓場にて例年のとおり大弓興行を行ないたく、願ひ出る。次に明治22、23、24、27年のものあり。	蔵分	原本	綴り	11		
2535 2579	IV 3	略		(津島講奉納金受取の覚)	○略 ●略	略	蔵分	原本	状	2		
2536 2601	IV 3	略		御祈祷料受納	○可睡斎役寮 ●上湯日村御講中	金61銭納める。	蔵分	原本	状	4		
2537 2000	IV 3	明治16年11月30日 (1883年)		(社寺財産扱いの件)	○湯日村戸長役場 ●八幡社、大井社、天神社、八王寺惣代御中	神社神官、寺院住職は社寺保全の任にあるは当然で、社寺財産も神官・住職のものとははっきり区別せねばならない。以後は社寺惣代と共に協力してこの区分をはっきりさせ保全しなければならない。そして社寺財産(田畑山林、宝物、祈禱葬儀に関するもの)は戸長役場へ届け出ること。	蔵分	原本	綴り	1		
2538 2023	IV 3	明治27年2月 (1894年)		祭典御届	○氏子惣代：瀧 賀惣次 ●金谷分署御中	鎌塚村社天満宮の祭典3月1・2・3日の3日間、例祭により執行届け。外に大井神社祭り、10月16・17日の2日間の例祭届けあり、これは10月14日付け。	蔵分	原本	状	2		
2539 1707	IV 3	明治27年12月 (1894年)		松林寺永続金貸与調帳 世話人	○なし ●なし	年利1割と定め各人貸付け。表題帳面の外に、明治29年永続貸付金元利取立帳明治43年貸付金利息取立帳、を一括同封する。	蔵分	原本	横帳	3		
2540 1705	IV 3	明治28年9月28日 (1895年)		松林寺地価反別調簿	○なし ●なし	字地毎、田畑・山林の反別・地価を挙げ、その計：田3反5畝歩、この地価154円14銭5厘、地租3円85銭2厘、畑9反1畝12歩、この地価174円9銭4厘、地租4円35銭2厘、山林2町3畝24歩、この地価74円50銭4厘地租61銭3厘となっている。	蔵分	原本	横帳	1		
2541 1703	IV 3	明治29年2月10日 (1896年)		松林寺山林立木売払代金 調簿 松林寺世話人	○なし ●なし	計7名の者に売却、その立木代金123円となる。	蔵分	原本	横	1		
2542 1706	IV 3	明治29年9月 (1896年)		松林寺永続金貸付名前帳 同寺世話人	○なし ●なし	利息は1ケ年1割と定め(明治29年9月改め)、1人1人の貸金と利息と名前を列挙する。明治29年から30年、31、32、33、34年と、続けて記載している。明治35年の帳面も一括同封。	蔵分 明治29年のものをこ ピーする	原本	横	2	○	85
2543 2012	IV 3	明治30年11月 (1897年)		皇太神宮大麻御初穂明細 簿	○神宮奉斎会浜松支部、榎原郡頒布派員：吉添栄蔵 ●なし	伊勢神宮への初穂料の勸誘とその徴収簿、色々な種類があり、一人大麻から始まり、次に4等大麻から略大麻まで9段階ある。	蔵分	原本	綴り	1		
2544 1704	IV 3	明治35年3月2日 (1902年)		本堂其他修繕=付諸払帳 松林寺世話人	○なし ●なし	瓦代金、その運賃、瓦敷賃、大工、木挽き、人足、その他諸色等の支払金を挙げその計56円24銭2厘と計上する。	蔵分	原本	横	1	○	85

2545 2021	IV 3	(明治年間)	養勝寺維持講申合規約及 仕方書	○養勝寺維持講世話人 初倉村湯日:山村久兵衛、外6人 ●なし	維持講規約20ヶ条、維持講仕方書(45回掛け)、毎会掛金請取証(表)を載 せる。	蔵分	原本	活字 帳	1		
2546 1710	IV 3	大正元年 (1912年)	大井神社諸掛扣	○なし ●なし	表題の帳面の外に、1月17日の「祭典費寄付金帳」が同時に綴込んである。	蔵分	原本	横の 綴り	1		
2547 1949	IV 3	なし 10月8日	廻章 (包み紙付き)	○湯日村射手:瀧次六、同嘉惣二、同政吉、栗田充 ●高島広 外18名	養勝寺地内にて虚空蔵菩薩開扉に際し、射的奉納実施、期日11日-15日、参 加を乞う。	蔵分	原本	状	1		
2548 1545	IV 3	なし	大祓詞	○なし ●なし	「高天原に神とどまります……………」で始まる大祓詞、全漢文体(変体仮名)で掲載。	蔵分	原本	状	1		
2549 1524	IV 3	なし 2月1日	(奉納物の神社取次願)	○湯日村上組:岡村重兵衛 ●社長:瀧 賀惣次	阿波々神社のお供米奉納せよとのことで、その奉納金を集めた(10名)。それ で、これを神社へお取次を願う。計金33銭5厘。	蔵分	原本	状	1		
2550 1546	IV 3	なし	六月晦日大祓 十二月准 之	○なし ●なし	集侍親王諸臣百官人等諸聞食止宣……………で始まる。	蔵分	原本	状	1		
2551 1994	IV 3	なし	御宝前太々御神楽執行之 図	○なし ●なし	神楽奉納の全体図と神楽由来の説明がある(木版)。	蔵分	原本	絵 図	2		
2552 1992	IV 3	なし	日本三種神器伝	○なし ●なし	いわゆる三種の神器=剣・鏡・玉がどのようにして皇室に代々伝えられるよう になったのか、その由来を記載する。	蔵分	原本	木版 印刷	1		
2553 1991	IV 3	なし	出雲大社記事	○なし ●なし	出雲大社のいわれとその末社を挙げる。また「出雲国造事実」の記事あり。出雲 国造は天徳日命の神孫とし、そのいわれを述べる。	蔵分	原本	木版 印刷	1		
2554 1979	IV 3	なし	御神楽奉奏加盟者名簿	○伊勢国山田 神宮昭徳会事務所 ●なし	要するに芳志金を募ったもので、芳志者の氏名欄あり。	蔵分	原本	活版	1		

IV-4 教育・文化-学問・出版

2555 1983	IV 4	明治41年1月24日 (1908年)	高野山現今全図	○高野天狗数珠店 ●なし	高野山実景全図を同封。カラフルな絵図。	蔵分	原本	絵 図	2		
2556 1544	IV 4	明治43年1月1日 (1910年)	修身要領	○時事新報 ●なし	人ひとり身をたてるのに、その修めの方法を、第1条~29条にわたって記載す る。これは明治32年6月、福沢諭吉の書を印刷複製して発行したもの。	蔵分	原本	状	1		
2557 2008	IV 4	大正7年7月1日 (1918年)	「利殖之研究」 第2巻22号 (雑誌)	○利殖之研究社 ●なし	・物価調節と社会問題、・農業と副業、・株式と利殖、・法律問答、等の8項目 より構成される。	蔵分	原本	雑誌	1		
2558 1981	IV 4	大正7年10月 (1918年)	食品滋養価値分析表	○なし ●なし	雑誌「家庭主婦」の付録。	蔵分	原本	パン フ	2		
2559 1980	IV 4	昭和10年 (1935年)	旅順(パンフレット)	○南満州鉄道株式会社 ●なし	旅順市街図と名所写真、解説がある。	蔵分 破損部分あり。	原本	パン フ	1		
2560 1656	IV 4	なし	(拓本 本)	○なし ●なし	碑文等を拓本して集め、一冊にまとめたもの。その碑文そのものは寛政12年の ものもあり、江戸時代のもの。	蔵分	原本	縦	1		

IV-5 教育・文化-文学

2561 1658	IV 5	なし	(詩文章稿) 瀧 国蔵	○なし ●なし	表紙に「伏して添削を乞う」とあることから、自作の漢詩文と思われる。自作詩 集とはっきり記しているものもある。	蔵分	原本	縦	6		
2562 1654	IV 5	なし	壇之浦嫩軍記	○なし ●なし	明治42年5月に写記したもの。	蔵分	原本	綴 り	1		

通し番号 文書番号	分類	年号 西暦()・干支	年 月 日	標 題	○差出人(役名・名前) ●受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原コ写 本ビ真	形 態	数 量	撮 影	箱 号
2563 1720	IV 5	なし		(漢詩集)	○なし ●なし	五言絶句、七言絶句、五言排律、七言排律 等の漢詩。	蔵分	原本	縦印 副本	1		

IV-6 教育・文化－芸能・芸術・スポーツ

2564 1727	IV 6	明治25年3月22日 (1892年)		おふみ・桂三郎しんちう くどき (心中)	○静岡 近藤泰道(発行) ●なし	もと士族で静岡在の桂三郎は初倉村の湯日学校の教師となる。一方、金谷生まれで士族松平氏のひとり娘おふみが初倉村の榎葉清七の養女となる。この2人ここで恋に陥る。肉親の反対を振り切って2人とも勘当の身となり、来世で結ばれんと心中する。以上のような物語。	蔵分	原本	印刷 本	1		
2565 2020	IV 6	明治37年10月 (1904年)		下総御料牧場売却馬匹名簿	○下総御料牧場(千葉県) ●なし	せり売りする馬の名前と種類、毛色、年齢、体の大きさ、父母の名前を一覧で示す。馬購入者の心得書もある。	蔵分	原本	パン フ	1		
2566 1995	IV 6	大正8年 (1919年)		(春季競馬番組)	○なし ●なし	磐田郡畜産組合主催、磐田競馬クラブ、大正8年春季(初回)競馬番組、第1~12競馬までの番付を示す。	蔵分	原本	パン フ	1		
2567 1550	IV 6	なし		新版城の腰心中	○なし ●なし	焼津城の腰心中物語。講釈師の語り調子で書いている。	蔵分	原本	木版 活字	1		

V-3 その他一家政

2568 1689	V 3	明治10年5月 (1877年)・丑		貸付金取立帳	○金谷在湯日村原告人:瀧 賀惣次(裏表紙) ●なし	村松寿作への取立分を記載する。	蔵分	原本	横 半	1		
2569 2006	V 3	明治17年3月14日 (1884年)		差出申書付之事	○湯日村瀧 文七、受人:大石新助、同大石久右衛門 ●同村:瀧 和十 親戚御中	和十離縁のことは親戚の厚いご理解もあり取り止めにしたことを書き付ける。	蔵分	原本	状	1		
2570 1700	V 3	明治33年1月8日 (1900年)		瓦之覚	○坂本:大石平作(裏表紙) ●初倉村湯日:瀧 賀惣次(裏表紙)	「1月8日 60枚、使 八太郎 平瓦」という様に、1月15日迄記載している。これ以外の記載はない。	蔵分	原本	横 半	1		
2571 1999	V 3	明治35年9月18日 (1902年)		馬匹売渡御届	○初倉村湯日:瀧 国蔵 ●初倉村長:榎葉良男	所有の馬(7才、鹿毛、4尺6寸、乗馬用)を勝岡田村の山本弥市に売渡したので、これを届け出る。	蔵分	原本	状	1		
2572 1712	V 3	明治39年1月 (1906年)		諸事其他歳中仕事人足扣簿 瀧氏	○なし ●なし	入用費出金扣、例:茶紙1丈25銭を8丈、2円(はいろ紙)、西嶋茶摘頼み手金、おしずへ8人分渡す、瀧六郎講事金、その他、色々。	蔵分	原本	横	1		
2573 1711	V 3	明治39年9月22日 (1906年)		普請木挽大工人足其他諸掛り帳	○なし ●なし	木挽きは渡辺伊助、11月23日勘定分は8円60銭と8円20銭、小島新作勘定分は15人4分、金10円46銭4厘、田岡田大工峯吉50人分、22円50銭となっている。この様な記載が更につづく。	蔵分	原本	横	1		
2574 1582	V 3	明治44年8月 (1911年)		宅地貸付契約書	○湯日・貸主:増田市平、同意者証人2名略 ●瀧 和十	宅地反別1畝10歩、貸付年貢1ヶ年玄米2斗、明治44年8月より47年(大正3)までの期間。	蔵分	原本	状	1		
2575 1581	V 3	明治44年8月 (1911年)		建家売渡証	○初倉村湯日売主:増田市平、外証人3名 ●同村同所:瀧 国蔵	平家1棟(奥行4間1尺、間口4間3尺)、これを60円で売渡す。	蔵分	原本	状	1		
2576 1570	V 3	昭和8年 (1933年)		(小島松太郎書類)	○略 ●略	小島松太郎委任状、土地所有権保存登記申請書、家督相続に付き登記申請、土地抵当権移転登記申請書、借入金證書等を綴込む。	蔵分	原本	綴 り	1		
2577 1183	V 3	なし		(金銭受取の覚)	○略 ●略	主として明治以降の金銭受取りメモであるが、中には江戸時代のものと思われる文書も綴込んである。	蔵分	原本	状の 綴り	1		
2578 1586	V 3	なし		なし(出納簿)	○なし ●なし	紙、ロウソク、金銀紙、手間賃等の品目あり。	蔵分	原本	横	1		

2579 1553	V 4	9月2日	私信	○飯塚新一郎 ●瀧国蔵	病氣見舞いのお礼を述べ、病名(腸カタル)を記しながら、その後の様子を報せる。	蔵分	原本	状	1		
2580 2580	V 4	なし	私信	○略 ●略	略	蔵分	原本	状	50		

V-5 その他洋行・移民

2581 1576	V 5	明治43年11月14日 (1910年)	日本帝国海外旅券(写)	○外務大臣:小村寿太郎 ●瀧国弟喜一郎	この旅券は瀧喜一郎が商用のため北米合衆国に赴く、その為のもの。	蔵分	原本	状	1		
--------------	--------	------------------------	-------------	------------------------	---------------------------------	----	----	---	---	--	--

V-6 その他雑

2582 2588	V 6	(明治年間)	(米領収の証) (その1)	○略 ●略	米は俵での受取りが多い。	蔵分	原本	状	一括		
2583 2589	V 6	(大正年間)	(米領収の証) (その2)	○略 ●略	米は俵での受取りが多い。	蔵分	原本	状	一括		
2584 2586	V 6	(明治年間)	(各種委任状) (その1)	○略 ●略	遠陽銀行初倉支店、初倉信用組合等に関する権限委任状が多い。	蔵分	原本	状	38		
2585 2587	V 6	(大正年間)	(各種委任状) (その2)	○略 ●略	何の委任なのかわからないものをここに一纏にした。	蔵分	原本	状	5		
2586 2600	V 6	(明治年間)	(金子等受取の覚) (その1)	○略 ●略	明治期の金子借用の一紙文書をここに一括同封する。	蔵分	原本	状	一括		
2587 1637	V 6	(明治年間)	(金子等受取の覚) (その2)	○略 ●略	明治期の金子借用の綴りの文書をここに一括同封する。	蔵分	原本	綴り	一括		
2588 2582	V 6	(明治年間)	(金子等受取の覚) (その3)	○略 ●略	明治期の金子受取りの覚をここに一括同封する。	蔵分	原本	状	一括		
2589 2584	V 6	なし	(金子等受取の覚)	○略 ●略	金子等受取状で、年代の分からないものをここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2590 2599	V 6	なし	(金子等受取の覚)	○略 ●略	各種金銭受取の記で、年代不明のものをここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2591 2591	V 6	(明治～昭和戦前)	(米借用之証)	○略 ●略	凶作、連作、飯料、その他要用につき借用、など借用理由は色々。	蔵分	原本	状	14		
2592 2583	V 6	(大正～昭和戦前)	(各種受取之証)	○略 ●略	大正～昭和戦前迄の各種受取証をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	54		
2593 2596	V 6	略	雑 (その1)	○略 ●略	状もの各種をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2594 2597	V 6	略	雑 (その2)	○略 ●略	状もの各種をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2595 2598	V 6	略	雑 (その3)	○略 ●略	状もの各種をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2596 2593	V 6	略	雑 (その4)	○略 ●略	表紙の欠のもの、内容の掌握し難いもの等をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	綴り	11		

2597 2592	V 6	略	雑 (その5)	○略 ●略	状もの各種をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2598 2585	V 6	なし	(個表)	○なし ●なし	各人名を記載、投票用紙、これには選挙人記載のものもあり、記名投票。	蔵分	原本	状	一括		
2599 2594	V 6	欠	断簡 (その1)	○欠 ●欠	前欠・後欠・前後欠の文書をここにまとめ一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2600 2595	V 6	欠	断簡 (その2)	○欠 ●欠	前欠・後欠・前後欠、その他の文書を一括する。	蔵分	原本	状	一括		
2601 2590	V 6	欠	断簡 (その3)	○欠 ●欠	前欠、後欠、前後欠、他の一紙文書を一括同封する。	蔵分	原本	状	一括		